

資源回復計画推進事業

－小型底曳網包括的資源回復計画関連調査－

岡崎孝博・和田隆史

本県における小型底びき網漁業の漁獲量は、1988年以降減少傾向にあることから（図1）、2007年度には「徳島県紀伊水道小型機船底びき網漁業包括的資源回復計画」が策定された（表1）。同計画は2011年度までの4カ年を実施期間として、実施期間終了時に1経営体あたりの年間漁獲量を2003～2005年の3カ年平均である12.7トンに維持することを目標としている。

本事業は、資源回復計画の効果を検証するとともに、目標達成のために新たな措置の追加等、計画の変更が必要と判断された場合には、資源回復に効果的と考えられる方策

を提案することを目的としている。

材料と方法

紀伊水道における小型底びき網漁業による漁獲変動をモニタリングするために、徳島市漁協および椿泊漁協の日別漁業者別の漁獲統計データを用いた。

結果と考察

徳島市および椿泊漁協の小型底びき網漁業における1日1隻あたりの漁獲量（以下、CPUE）の経年変化および2010年の月別変化を明らかにした（図2）。年別のCPUEは、徳島市漁協では2002年に多かったものの概して100kg/日程度で横ばい傾向で、椿泊漁協では90～190kg/日程度で増減した。月別のCPUEは、両漁協とも4月に漁獲は減少し、1月と9月を中心に増大した。

表1. 徳島県紀伊水道小型機船底びき網漁業包括的資源回復計画における魚種ごとの取組内容

魚種	現状の取組内容	新たな取組内容
ハモ	150g以下の再放流	200g以下及び4kg以上の再放流
マダイ	全長14cm以下の再放流	全長15cm以下の再放流
ヒラメ	なし	全長20cm以下の再放流
マコガレイ	なし	全長15cm以下の再放流
クルマエビ	なし	全長10cm以下の再放流
ガザミ	抱卵ガザミの再放流	継続実施

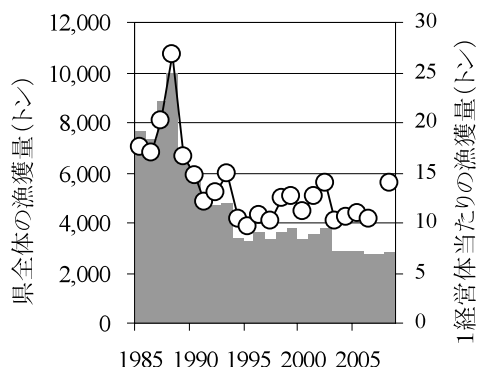


図1. 小型底びき網における漁獲量の経年変化
（■：県全体，○：1経営体当たり）

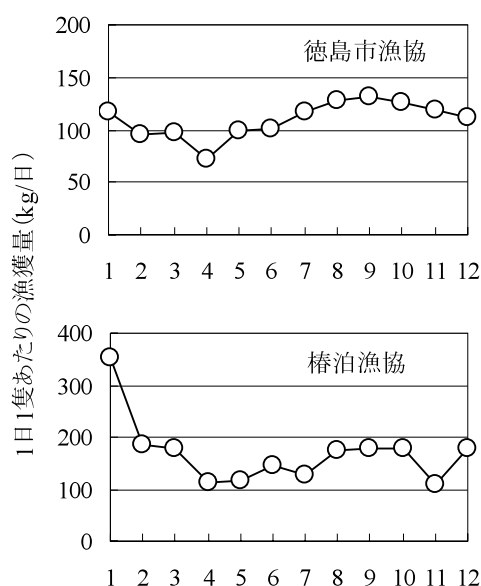
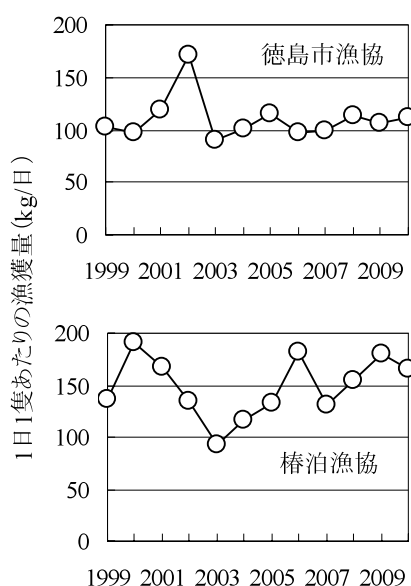


図2. 小型底びき網におけるCPUEの推移（右：年別，左：2010年の月別）

資源回復計画の対象種について、1999～2010年のCPUEを明らかにした。ハモのCPUEは増減がみられるものの、2006年以降横ばい傾向を示した（図3）。資源量は高水準にあると考えられる。

マダイのCPUEは増減がみられるものの、総じて横ばい傾向を示した（図4）。資源量はほぼ一定と考えられる。

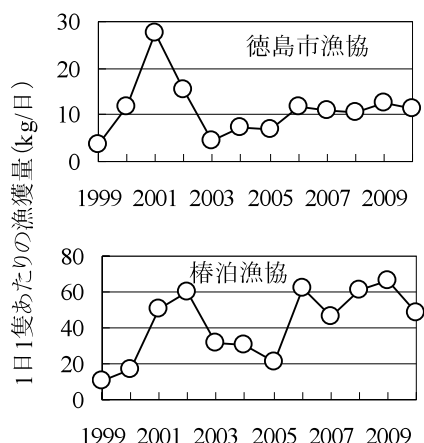


図3. 小型底びき網におけるハモのCPUEの経年変化

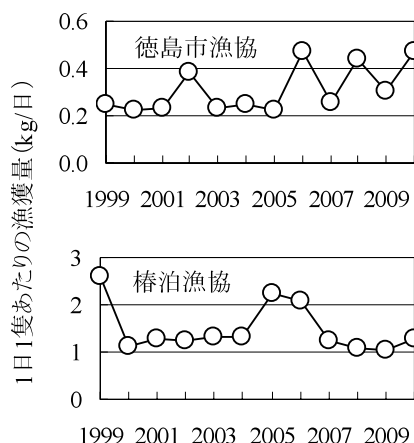


図4. 小型底びき網におけるマダイのCPUEの経年変化

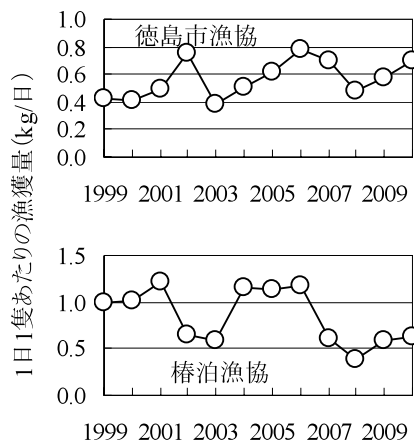


図5. 小型底びき網におけるヒラメのCPUEの経年変化

ヒラメのCPUEは年によって変動するものの、総じて横ばい傾向を示した（図5）。資源量は低水準にあると考えられる。

マコガレイのCPUEは2006年以降横ばい傾向を示した（図6）。資源量は低水準にあると考えられる。

クルマエビおよびガザミのCPUEは近年減少傾向が続いている（図7, 8）。両種とも資源量は低水準で減少傾向にあると考えられる。

資源回復計画の対象6種のうち4種でCPUEが横ばい、2種で減少傾向にある。本計画の最終年となる次年度以降、計画実施の効果を評価する必要がある。

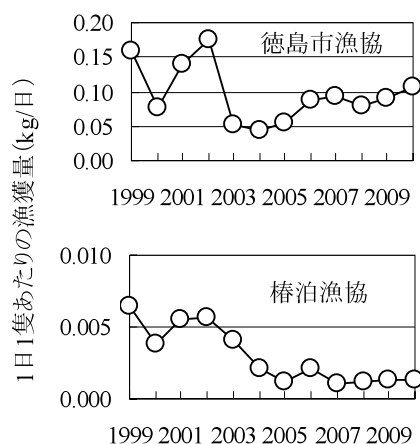


図6. 小型底びき網におけるマコガレイのCPUEの経年変化

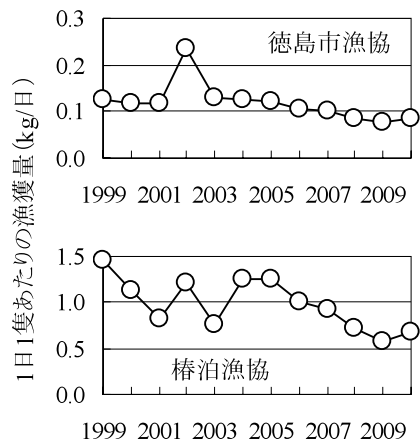


図7. 小型底びき網におけるクルマエビのCPUEの経年変化

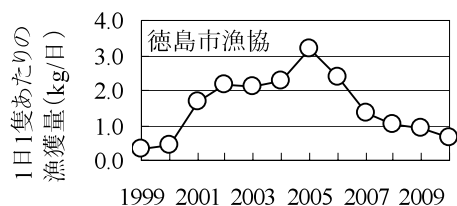


図8. 小型底びき網におけるガザミのCPUEの経年変化